

# 会 議 録

会議の名称	令和3年度第1回太子町総合教育会議														
開催の日時	令和3年12月2日（木）午後2時～午後3時43分														
開催の場所	太子町役場 行政棟3階 災害対策室（ホール）														
出席者	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">（町長） 服部 千秋</td> <td style="width: 50%;">（教育長） 檜野 正樹</td> </tr> <tr> <td>（副町長） 杉原 勝由</td> <td>（教育委員） 圓尾 健太郎</td> </tr> <tr> <td>（総務部長） 森田 好紀</td> <td>（教育委員） 福田 秀樹</td> </tr> <tr> <td>（生活福祉部長） 嶋津 一弥</td> <td>（教育委員） 福本 充治</td> </tr> <tr> <td></td> <td>（教育委員） 杉本 泰代</td> </tr> <tr> <td></td> <td>（教育次長） 栗岡 正則</td> </tr> </table>	（町長） 服部 千秋	（教育長） 檜野 正樹	（副町長） 杉原 勝由	（教育委員） 圓尾 健太郎	（総務部長） 森田 好紀	（教育委員） 福田 秀樹	（生活福祉部長） 嶋津 一弥	（教育委員） 福本 充治		（教育委員） 杉本 泰代		（教育次長） 栗岡 正則		
（町長） 服部 千秋	（教育長） 檜野 正樹														
（副町長） 杉原 勝由	（教育委員） 圓尾 健太郎														
（総務部長） 森田 好紀	（教育委員） 福田 秀樹														
（生活福祉部長） 嶋津 一弥	（教育委員） 福本 充治														
	（教育委員） 杉本 泰代														
	（教育次長） 栗岡 正則														
陪席者	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">陪席者（総務部財政課長）</td> <td style="width: 50%;">佐々木 信人</td> </tr> <tr> <td>（生活福祉部社会福祉課長）</td> <td>北 陽一郎</td> </tr> <tr> <td>（教育委員会管理課長）</td> <td>改野 学由</td> </tr> <tr> <td>（教育委員会社会教育課長）</td> <td>池田 誠</td> </tr> <tr> <td>（教育委員会文化推進課長）</td> <td>田村 三千夫</td> </tr> <tr> <td>事務局（総務部企画政策課長）</td> <td>熊谷 恵之</td> </tr> <tr> <td>（総務部企画政策課係長）</td> <td>井出 洋平</td> </tr> </table>	陪席者（総務部財政課長）	佐々木 信人	（生活福祉部社会福祉課長）	北 陽一郎	（教育委員会管理課長）	改野 学由	（教育委員会社会教育課長）	池田 誠	（教育委員会文化推進課長）	田村 三千夫	事務局（総務部企画政策課長）	熊谷 恵之	（総務部企画政策課係長）	井出 洋平
陪席者（総務部財政課長）	佐々木 信人														
（生活福祉部社会福祉課長）	北 陽一郎														
（教育委員会管理課長）	改野 学由														
（教育委員会社会教育課長）	池田 誠														
（教育委員会文化推進課長）	田村 三千夫														
事務局（総務部企画政策課長）	熊谷 恵之														
（総務部企画政策課係長）	井出 洋平														
傍聴者	4名														
議事	<ol style="list-style-type: none"> <li>（1）町長部局と教育委員会との連携により取り組みたい事業</li> <li>（2）教育委員会の施設整備方針等</li> <li>（3）総合教育会議に対する姿勢、あすかホールの今後の展望、教育委員会事務局組織について</li> <li>（4）その他</li> </ol>														
会議の概要	別紙議事録のとおり														
公開・非公開の区分	公開														
使用した資料	次第・令和3年度第1回太子町総合教育会議資料														
連絡先	総務部企画政策課 TEL:079-277-5998 FAX:079-276-3892														

## 1 開会

事務局

(熊谷企画政策課長)

失礼いたします。定刻となりましたので、ただ今から令和3年度第1回太子町総合教育会議を開会いたします。

本日の司会進行を務めさせていただきます、企画政策課の熊谷でございます。よろしくお願いいたします。

まずはじめに、服部町長からご挨拶を申し上げます。

## 2 あいさつ

服部町長

本日は、師走の大変お忙しい中、令和3年度第1回太子町総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、平素は、町教育行政の運営に格別のご配慮を賜っておりますこと、厚くお礼申し上げます。

教育委員の皆様におかれましては、9月の協議の場などにおいてもお話させていただきましたが、『お互いの立場を尊重しながら、まさにこの総合教育会議のテーマにもごございます、「連携・協力」し、町行政、町教育行政の推進に努めてまいりたい』と考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年より引き続くコロナ禍でございますが、一昨日より、新たな変異株の感染者等が国内でも確認されるなど、これから迎える本格的な冬の季節や年末年始に伴う人流の増加等により、第6波も懸念されるところでございます。

これらの影響は、安全・安心の住民生活のみならず、学校園での子どもたちにとっても、非常に大きなものとなっており、新たな日常の中での繋がりや関わりが大きなテーマとなっているのではないのでしょうか。

本日は、お配りしております次第にもございますとおり、町長部局と教育委員会部局が連携・協働すべき事業をはじめ、様々な課題などが提示されております。

限られた時間ではございますが、せつかくの機会でございますので、忌憚のない意見交換により、今後の町行政、町教育行政の推進に繋がりますようお願い申し上げます。冒頭のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

(熊谷企画政策課長)

ここで、この会議の構成員を確認させていただきます。

お手元の「令和3年度第1回太子町総合教育会議資料」の1ページをご覧ください。この名簿のとおり、本会議は、町長部局より、町長、副町長、総務部長、生活福祉部長の4名が参加いたします。また、教育委員会からは、教育長、4名の教育委員様、教育次長、計6名が参加されます。

また、陪席者としまして、町長部局より財政課長と社会福祉課長、教育委員会より管理課長、社会教育課長、文化推進課長が出席しております。

なお、事務局は、企画政策課の 私、熊谷 と 井出で務めさせていただきます。

## 3 議事録署名委員の選定

事務局

次に、次第の「3」議事録署名委員の選定につきましては、本日は、福田秀樹委員と

(熊谷企画政策課長)

福本充治委員にお願いいたします。

お二人には、後日、事務局がまとめました議事録をご確認いただき、ご署名をお願いいたします。

#### 4 議事

事務局

(熊谷企画政策課長)

次に、次第の「4」議事に移ります前に、昨年度、この会議において、町長部局と教育委員会との連携により取り組みたい事業として議論いたしました内容についての報告をさせていただきます。

主に、社会福祉課所管の内容となりますので、生活福祉部長の嶋津よりご説明申し上げます

嶋津生活福祉  
部長

失礼いたします。生活福祉部長の嶋津でございます。私からは、昨年度の本会議での議論を経まして、令和3年度より実施することとなった事業についてご説明申し上げます。

まず、令和3年4月より、さらなる子ども・子育て施策の充実のため、また今後、本格的な人口減少時代に向けた展望を検討する際、これまで以上に強化した体制の中で政策立案を機動的に行うべく、社会福祉課内に「子育て応援室」を設置いたしました。主に、これから説明いたします子ども家庭総合支援拠点、児童虐待、療育相談などの業務を所掌してございます。

次に、令和3年4月より、先ほど申し上げました「子ども家庭総合支援拠点」を社会福祉課内に設置いたしました。従前より保健福祉会館、さわやか健康課内にございます「子育て世代包括支援センター」を含めた両拠点において、センターにおける妊娠期から子育て期の支援に加え、支援拠点においては、子ども家庭支援全般に係る業務、要支援児童及び要保護児童等への支援業務、関係機関との連絡調整など、0歳から18歳までの全ての子どもとそのご家庭、妊産婦を対象に、専門的な相談や訪問などによる切れ目のない支援を行っております。相談を受けやすい体制、遅滞なく適切に対応する体制を整備し、新拠点が支援センターや教育委員会部局とこれまで以上に連携、情報共有を図ることで、横断的な施策を展開していきたいと考えております。ご報告は以上でございます。

事務局

(熊谷企画政策課長)

それでは、議事に入ります。議事(1)は町長部局と教育委員会との連携により取り組みたい事業について、でございます。

この総合教育会議が設置された目的は、町長部局と教育委員会との連携を密にし、一体となって子どもや教育に対する事業を進めようというものであります。子どもや教育に対するニーズが多様化しておりますが、町長部局と教育委員会の連携を強めるために重要と思われる事項につきまして、担当部長よりご説明させていただき、その後ご意見を賜りたいと考えております。

まず、事務局にて町長部局と教育委員会との連携・協働により取り組むべき政策課題や具体的な事業について、全庁的に取りまとめを行いました。その内容については、資

料の2ページから6ページをご覧ください。特に、まとめました内容は3ページから4ページでございます。

この項目を大きく二つに分けますと、「①総合公園の自然を活用した生物多様性に関する学習環境の構築について」と「②子ども・子育て施策について」に分類させていただきました。

①については、町長部局側からの教育委員会部局に対する提案といった内容であり、②については、子ども・子育てに関する施設（保育所・幼稚園）のあり方、学童保育や放課後子ども教室の方向性など、既に進捗している事業について、今後のビジョンなどの検討をはじめの必要性を指摘したものでございます。

①については、総務部長よりその概要をご説明させていただきます。また、②については、次第の(2)にございます「教育委員会の施設整備方針等」とも大きく関わりのある内容でございますので、(2)の協議と一括して議論させていただきたいと思っております。

それでは、「①総合公園の自然を活用した生物多様性に関する学習環境の構築」について、総務部長の森田よりご説明申し上げます。

森田総務部長

失礼いたします。総務部長の森田でございます。私からは、「総合公園の自然を活用した生物多様性に関する学習環境の構築」についてご説明申し上げます。

令和3年7月にオープンした「総合公園体験学習施設」は、公園の自然環境を活用した取組を進めているところであり、多様な主体との連携により、柳池の生物調査や希少植物の育成、NPO団体による池の清掃及び浄化活動、総合公園内の里山整備も今年度より開始しております。

資料の5ページに、姫路市伊勢自然の里の事例をご紹介させていただいておりますが、本町でも学校の校外学習の場としての利用などができないかについて、色々ご意見をいただきたく、体験学習施設を有効的に活用するため提案するものでございます。よろしく願いいたします。

事務局

(熊谷企画政策課長)

説明が終わりました。どなたからでも結構ですので、ご意見はございますでしょうか。

服部町長

総合公園の自然を活用した生物多様性に関する学習環境の構築について、子どもたちの年齢でこのような体験ができますことは、感性の向上はもちろんのこと、自律心（我慢と責任感）の向上などにもよいと伺ったことがございます。非常によい取組であると思っておりますので、関係所属において、問題点など支障となるものがないか確認いただきながら検討していただければと思います。

【その他意見なし】

事務局

(熊谷企画政策課長)

それでは、町長側からの提案ということで、今後、関係部署において協議を進めてまいります。

事務局

(熊谷企画政策課長)

次に、議事(2)教育委員会の施設整備方針等、でございます。

事前に教育委員会において、特に幼稚園の施設整備方針をお示しいただいております。また、議事(1)②の子ども・子育て施策(施設関連)については、ここで一括して議論させていただくこととしておりましたので、よろしく願いいたします。

それでは、まずは、教育長より、資料の21ページ、22ページ、教育委員会の施設整備方針について、改めてご説明をお願いいたします。

楢野教育長

教育委員会からの強い交渉、労使交渉のようなものではありませんので、色々な角度から、意見をいただければと思っております。

「幼稚園について」ということで、とにかく園児数が減少していています。施設環境の格差、他の私立のこども園などから比べると4園ともそのような状況です。

また、太田幼稚園を除き、3園では単学級となっており、学習内容の深まりや広がりも難しく、若手教員の育成面においても適した環境にありません。

従来から、幼稚園は幼児教育の中核として、その役割を果たしてきております。幼児は遊びの中で主体的に対象にかかわることで、自己を確立させていきます。そこから外の世界に対する好奇心が生まれ、探索し、知識を蓄えるための基礎が形成されます。また、人とかかわる力や他人を思いやる心など、自身を取りまく社会への感覚を養っています。このような幼児期の発達特性に照らして、生涯にわたる人間形成の基礎を培う教育を行ってきました。

太子町教育委員会としては、これまで連綿と続いてきた幼稚園教育の火を絶やすことなく未来に繋げるために、現行の幼稚園4園の集約化を提案させていただきます。

また4園統合は、太子町公共施設等総合管理計画における「施設の集約化」に寄与するものでもあると考えています。運営経費の節減や教諭の人員確保を行いつつ、教育環境を再整備することで、既存の保育所や私立の認定こども園とは一線を画した教育施設として、子育て世代の選択肢の一つになるものと考えており、太子町として、何かしら教育施策の目玉となるものができたらと考えております。

今後、幼保一元化による統合を目指すのか、施設整備方針をはじめとする太子町の幼児教育そのものが岐路に立っていると思われまますので、服部町長におかれましては、「今後の幼稚園のあり方」について、思い描くビジョンをお聞かせいただければと思います。よろしく願いいたします。

事務局

(熊谷企画政策課長)

それでは、町長の意見を伺う前に、子ども・子育て施策の内、主に施設に関する部分について、生活福祉部長の嶋津よりご説明申し上げます。

嶋津生活福祉  
部長

今回、町長部局と教育委員会との連携により取り組みたい事業として、公立の認定こども園に向けて協議をはじめべきではないかという意見や、先ほど教育長よりご説明のありました「教育委員会の施設整備方針等」にもございました、幼稚園の統合などを含めた町有財産の有効活用といった意見を取りまとめております。

一方、昨年総合教育会議においては、町長部局、教育委員会部局ともに、幼保一元

化については、本町の場合にあつては、早急に進める必要はないとの認識で一致しておりました。また、施設についても、例えば、斑鳩保育所については、令和2年度に、トイレの改修及び空調設備、厨房設備の更新を行っており、今後は、屋根瓦や外壁の改修などに取り組む予定もございます。本町には、その他の民間認可保育施設も6園ございますので、これらと共存し、幼稚園における3歳児保育も含め、一定数存在する待機児童解消に努めながら、現状を進めていく方針であったと承知しております。

これらを総括いたしますと、短期的には、現状の進捗といった方針ではございますが、中長期的に見た場合、将来的な人口減少や人口構成の変化等も踏まえ、教育委員会部局とともに、統廃合を含めた検討をはじめておく必要はあると感じているところでございます。

事務局

(熊谷企画政策課長)

ただ今、教育長及び生活福祉部長より説明をいただきました。これらを踏まえ、「今後の幼稚園のあり方」について、服部町長、よろしくお願ひいたします。

服部町長

教育長並びに教育委員の皆様、この度は貴重なご意見をありがとうございます。私といたしましては、公約であります「20のお約束」にも掲げておりました「社会福祉部門と教育部門の施策から子ども子育て施策を整理」する中で、「和のまち太子」の未来を担う子どもたちのために最良の方策を展開することを目標としております。

令和3年4月より、昨年この場でご協議いただき、子ども・子育て施策をより機動的に推進できますよう、「子育て応援室」を設置させていただきました。

現段階では、幼保一元化や幼稚園の統合、また、統合にしましても全園統合や部分統合、3歳児保育の本格実施を含めた現体制の維持など、様々な選択肢があると考えております。

今後、先の応援室や教育委員会と協議を重ねる中で、また、保護者の方々の意見も様々なものがあるかと思っておりますので、子どもたちにとって最良の方策を導き出せるよう、確実に議論を積み重ねていきたいと考えているところでございます。

子ども・子育てに関するこのような重要な局面において、大きな方向性についての様々なご意見を頂戴することは、非常に意味のあることだと考えておりますので、この場や会議のみならず、以前より申し上げておりますとおり、普段、町長室にお出でいただいて、「ざっくばらん」に意見交換することも大歓迎でございます。

是非、様々なお考えを聞かせていただければと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局

(熊谷企画政策課長)

それでは、幼保一元化についてなど、教育委員の皆様のご意見などございましたら、よろしくお願ひいたします。

福田教育委員

幼稚園が今の状況からしますと、統合ということを検討していかなければいけないと思います。前教育長の時からそのことは仰っておられました。

今現状、子どもが減ってきており、全体としても人口減少が進んできている中、今後、

人口減少を食い止める、子育て世代に太子町に住んでいただけるよう、そういった部分について、町長はどのようなビジョンをお持ちで、その結果、幼稚園や保育所をどのようにしたいとお考えか、教えていただけますでしょうか。

服部町長

人口を増やすための施策として、例えば、揖保線のところが今後姫路の方へ延びていく計画がございます。実現をお約束できるものではございませんが、私の思いとして、吉福や沖代のあたりについて、地元の皆様の協議が未了の状態であることを前提として、調整区域に家を建てられる状況にしたいと考えております。新知事が就任され、協議などの場において、調整区域をどのようにしていくのかという話も出てきております。知事自身もハードルが高いといった話もされていますが、人口を増やしていくためにこのような施策を実現できないかという点について、庁舎内において、担当課とは話をはじめているところです。

このことは他のエリアでも同じです。例えば、網干駅のところも陸橋が架かろうとしているところであり、その沿道が、今までの土地の利用計画のままでよいのかなどについても検討してもらっているところです。

加えて、あすかホールについても、西側においては、網干駅からたつの方の方に道路（県道）が付く計画で進んでおります。中々、進み具合が順調にはいっておりませんが、少しでも早くという思いは強くもっているところです。この道路の脇についても、旧2号線における旧役場跡地から東の東保交差点までの間については、許可の下に現在の建物が建っているわけではありますが、こういったエリアについても、例えば、商業用地にできないのかなどという点について、今後検討できないかと考えているところでございます。そうすることで、本町において、今まで以上に、人口増加やまちの活性化に繋げることができるのではと考えているところです。

また、例えば、広坂地区において、その東に、従来であれば工場が稼働していた場所がありますが、建物があっても十分に活用できないエリアもありますので、地元の方々とも協議しながら、可能であれば、こういったエリアについても、地区の計画を立てた上で、地域を活性化させていきたいと考えております。

これらの土地政策を進めていくことで、人口増加に繋げていきたいというビジョンをもっているということ、私の「夢」としてお話させていただきました。このことにより、ひいては、子どもたちが増えることに繋がればと考えております。

ちなみに、現状としまして、今は区画整理により市街化になっている JR の西南エリアについて、家が建築されることによって、石海地区の子どもたちが増えることに繋がっていくと考えております。

福田教育委員

住環境という点については、私も、子育て世代にとって非常に重要な部分であると認識しています。太子町は、空き地や空き家も多くありますので、こういったところに安く住めるであるとか、住環境の整備により、対象世代を呼び込むことは重要なことです。

もう一つは、子育て支援。他市町の事例として、例えば、給食費の無償化や、幼児教育からは外れますが、小中学校の図書館教育の充実、中学校の 35 人学級へ向けた教員

の配置、また、豊岡市であれば、文化芸術に力を入れておられる点など、まさに夢があるような、太子町に来れば支えていただける、そんな施策について、この総合教育会議で議論ができればと考えています。

服部町長

政策のことになりますので、実現の可否は別としまして、私個人の意見を申しますと、例えば、給食費の件については、親としての務めの一つとして考えております。だからといって、今後、無償化をしないと言っているわけではありません。私の基本的な考え方ということでございます。

一方で、近隣でそのような施策をとられている団体もございますので、様々な政策を検討する中で考えていきたいと思っております。

また、中学校の人事配置の強化という点については、人件費の負担の増加という問題もございます。私の1期目の際、管理課に指導主事を増員したわけではございますが、教員の配置については、1年だけのことでなく、今後続いていくことになりますので、兵庫県や私の承知している岡山県の事例なども存じておりますが、継続性という部分で、慎重に検討していかなければならないと考えております。

次に、豊岡市の事例の件でございますが、文化的な事柄について、例えば、施設の建築、有識者の招へいなど、先ほどの件と同様に、費用負担が生じるものであり、本町の財政状況も踏まえながら検討しなければなりません。重要なお指摘、ご意見であることは十分認識しておりますので、今後、内部で相談しながら検討してまいりたいと考えております。貴重なご意見をありがとうございます。

福田教育委員

すいません。私の質問の仕方が少し悪かったと思います。先ほど申し上げたことをやっってくださいという意味ではなく、子育て支援や町の教育に対して期待している保護者などは多くいると思います。「太子町にいけば、このような施策をとっているよ。」などといった夢を語るができないか、という趣旨で申し上げました。

土地利用施策の件とは別に、子育て世代がこのまちで暮らしたいと思えるといった観点からの子育て支援、教育についての政策に基づく人口増加と申しますか、ビジョンについてという意味でございました。

こういうことが大きな柱となって、ひいては、幼稚園をどうしていくのか、こども園をどう考えるのかなどということが出てくると思います。また、幼稚園を一本化したとしても、その中身を魅力あるものにしていかなければなりません。「太子町の幼稚園やこども園に入ったらこういうことができる。」といった部分も重要なのではないのでしょうか。

服部町長

例えば、仮に本町の幼稚園を1園に統合したとして、非常に綺麗な建物が完成し、海外の姉妹関係を結び、年に1回程度、留学の補助を町が支出する希望者を募るとします。このような「夢」は魅力となり得るとは考えるのですが、現実論を考えました時に、姉妹関係の維持に関する問題、継続性、先細りであるとか、現在の世の中ではリモートでの交流も可能であるとか、様々な課題や方法論があると思います。



私も「夢」はもってはいりますが、先ほども申しましたとおり、この場や会議のみならず、以前より申し上げておりますとおり、普段、町長室にお出でいただいて、「ざっくばらん」に意見交換し、そこから深めていくことで、具体的な協議、話し合いへと繋がるものとも考えております。また、現場の先生方のご意見もあろうかと思っておりますので、「夢」を語ることの素晴らしさとともに、そのような議論ができますことも期待しているところです。

楢野教育長

今、町長からお話のありました、留学への支援を含めた夢の部分ですが、非常に良い話であると感じながら聞いておりました。一方で、先細りなどの課題等、現実問題としてクリアしなければいけないものも多くあると思います。

現在、コロナ禍において、子どもたちは様々なことを制約されており、例えば、中学生の英語教育、国際理解教育の上で、留学制度の募集などの道を示してあげることで、勉強の励みになったり、将来への展望を考えることに繋がるのではないのでしょうか。幼稚園の件のみならず、こういった議論をすることで、様々な展開も生まれてくるかもしれません。

また、福田委員の仰られた図書館教育の充実に関連して、学校への司書の配置についてですが、先日の近畿教育委員会研修において、GIGA スクール構想や ICT がしきりに叫ばれていますが、結局のところ、読書が最も脳の活動を活性化されるとされており、膨大なデータを踏まえ、東邦大学の川島隆太教授もそのことを仰っています。タブレットで読書するよりも、紙で読書する方が脳がより活性化し、想像力にも繋がっていくなどの話もされておられました。

これは、より一層、太子町の読書教育を進めていかなければと思ったところですが、現状、司書が配置されていないということをこの度把握したところです。是非とも、司書の配置についてお願いしたところでありまして、福田委員の話聞いて改めて実感したところです。

事務局

(熊谷企画政策課長)

様々なご意見をありがとうございました。今後、ご意見いただいた部分などについて、協議を進めていければと思います。

それでは次に、子ども・子育て施策の内、残りの学童保育及び放課後子ども教室などに関する部分について、生活福祉部長の嶋津よりご説明申し上げます。

嶋津生活福祉  
部長

まず、太子町の実情をお話させていただく前に、資料に沿って、制度等についてご説明させていただきます。14 ページでございます。放課後子ども総合プランの目標等が記載されております。全国的な部分では、一体型の放課後児童クラブ及び放課後子ども教室を1万箇所以上で実施するとされております。また、文部科学省が所管する放課後子ども教室、厚生労働省が所管する放課後児童クラブの現状についても記載がございます。

また、16 ページ、17 ページにおいては、先進的な事例として、小平第八小学校や酒

井根東小学校の事例が紹介されており、充実したプログラムの中で、両制度が一体的に実施されている状況が見てとれます。

どうしても厚生労働省の学童保育園については、「見守り」に主眼が行き過ぎているところをごさいます、月1回であっても、放課後子ども教室と一体となり開設できたらと考えているところをごさいます。

学童保育園の応募者の中にも、元の中学校の美術教諭や理科教諭などもおり、そういった先生においては、学童保育園を巡っていただき、得意分野を発揮していただければと考えており、私や社会福祉課長も思いとして持っているところをごさいます。

18 ページには、新・放課後子ども総合プランが示されてており、国においては、引き続き、2023 年度末までの具体的な目標を立てているところであり、また、19 ページにおいては、余裕教室の放課後児童クラブへの活用などについて記載されております。

さて、太子町はどうなのかというところですが、7 ページ以降の「太子町子ども・子育て支援事業計画」において、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な実施を推進することを掲げているところをごさいます。

そういった前提の中で、現在の石海学童保育園については、今後、手狭な状態を解消するため、現所の和室部分を拡充することで、一定程度受け入れ数の増加に寄与するものと考えておりますが、老朽化の問題から、新たな候補地も検討しているところをごさいます。その中で、学校管理であります旧給食センター跡地への移転について、小学校に近接しており、公共施設の有効活用の観点からも、将来の候補地の一つとして、設置が可能かを今後協議させていただきたいと考えております。あくまで候補地の一つをごさいます。

次に、太田幼稚園北側に建設が予定されています2階建ての学童保育園プレハブ教室については、教室の空き状況等を考慮した上で、文部科学省が所管する「放課後子ども教室」との一体的な実施の推進について、教育委員会社会教育課と、今後協議をさせていただきたいと考えております。先ほどの説明時の私の思いも重ねてお願いしたいと考えております。

次に、保育所の待機児童の解消について、令和3年4月時点において、本町における待機児童数は14名となっております。民間施設の動向については、令和5年4月より、とみのおか保育園が認定こども園として開園予定となっております。

これらを含めた民間保育施設と共存しながら、幼稚園における3歳児保育も含め、待機児童解消に努めていくところですが、現在、試行が4年目を迎えようとしている3歳児保育について、昨年の本会議においては、「効果を上げており、さらに、耐震化の進捗との兼ね合いの中で、本格実施の時期を探っている。」という発言があったものと承知しております。

当該本格実施については、待機児童の解消や幼稚園の就園率の向上に寄与するものであると考えておりますので、今後の方向性などについて、ご教示いただければと存じます。よろしくお願いたします。

事務局

それでは、教育委員会の現状について、栗岡次長よりお願いたします。

(熊谷企画政策課長)

栗岡教育次長

嶋津部長より、石海学童保育園に関するお尋ねがございました。この7月に役割を終えた給食センターがございました。ここ数年中に建物は解体されるものと考えております。小学校から非常に近く、場所も広大なものであることから、検討・協議ができるものと考えております。

また、太田幼稚園北側に建設が予定されています学童保育園プレハブ教室において、放課後子ども教室との一体的な実施というお話がございました。これまでのところ、空き教室の使用、地域のボランティアスタッフの活用等、解決しないといけない課題がまだまだあり、実施には至っていないのが現状ではございますが、一方、自治会においては、自治会の方々が地域の子どもたちを集め、教え、学ぶ場を提供し、成功を収めているところもございます。今後、引き続き、社会教育課と協議をさせていただければと思います。

幼稚園の3歳児保育というお話もございました。現在は園児が減少してきており、各園において、以前は4割を超えていた就園率が、来年においては3割を切るという状況でございます。老朽化した施設で減少していく園児という中で、他方、町内では、令和4年度は7つの保育施設、1公立で計8つの保育施設に対し、幼稚園との比較という状況であります。一方、幼稚園に対する保護者の思いというものもございます。教育としての幼稚園をいかに活用していくかということについては、我々の課題でもございますので、引き続き検証してまいりたいと考えております。

事務局

(熊谷企画政策課長)

これについては、まだまだ協議すべき部分が多いと思いますが、教育委員の皆様からご意見等ございましたら、お願いいたします。

福田教育委員

先ほど、とみのおか保育園の認定こども園化の話がございました。そうしましたら、保育年代のニーズに対しての受け皿がさらに増加するというわけです。教育委員会としましては、幼稚園の一本化という方向性を出しているところですが、こども園なのか、幼稚園なのかなど、早急に町としての方向性を出していく必要があるのではないのでしょうか。ハード面の傷みも激しいですし、他市町において、保育園やこども園が充実しているところでは、公立は幼稚園で残しているところもたくさんあります。一方、過疎部では一本化しているところが多いように感じます。

そこで、町長は、このような中、どちらに軸足を置いておられるのでしょうか。

服部町長

私の中では、4園を1園に統合するという方向性を伺ったのは、数日前がはじめてでありまして、この度、教育委員会よりこのようなお話をいただき、貴重なご意見として承ったところです。

時間があまりないことも理解はしておりますが、例えば、建築場所やそれに伴う送迎の問題などもあり、選択肢の一つとして承知はいたしました。一方で、公共の建物を今後どうしていくかという議論もあり、他の公共の施設も老朽化しているという状況の中、床面積を減らしていくという方針としており、教育委員会の立場としてのご意見は

承るところではありますが、私としましては、予算なども含め全体として検討しなければならない立場でもあります。この後、あすかホールのことなども議題に出てまいりますが、現実論も見ていかなければいけないというところであり、現段階では、どちらかに判断するまでの情報がない状況です。

今後、皆様や、担当課及び担当部次長より現状など様々な意見をいただきながら、その中にも異なった意見もあろうかとは思いますが、それらを受けて最終的には判断してまいりたいと考えております。

福本教育委員

町長の今のお話は非常によく分かるのですが、園児数の減少の状況を見ましても、現状、何らかの打開をしないといけないという部分については、町長もご認識されていると思いますが。

服部町長

幼稚園などの耐震上の問題のある古い建物について、担当課との詰め協議はまだできていない前提ですが、できる限り早く取り壊すなどの対応が必要であると考えています。具体的には、太田幼稚園の園舎、斑鳩幼稚園の園舎の一部などです。取り壊した後は、最近の担当課からの情報では、園児数の大幅な減少などにより、今の建物でも子どもたちが入っていける（場所的に対応できる）と聞いているところです。

それを、仮に1園に統合とした場合、地域の方の思いもあるでしょうし、仮にどちらの方向になった場合であっても、当然に様々な意見が出てくるのが想定されますので、教育委員の皆様にも是非ご協力をいただきたいと思いますと考えております。

私も、すぐに動きたい、急を要することの一つであるとも考えておりますが、一方、これを急いで例えば3・4年などの短期間で決定してしまった場合、住民の皆様にも円滑に受け入れられるのか、そのためにはどのような調整が必要なのかなどを思慮しました時、直ちに答えがでない状況でございまして、ですので、どの道に進むべきか、皆で協力して色々な意見を出し合いながら、検討してまいりたいということでございます。

福本教育委員

どちらに行くかを問題にしているのではなく、例えば、龍田幼稚園なども、園児数から見ましても望ましい状況ではないと思いますので、議論を開始しておく必要性について、町長も認識されているのであれば、ある程度大まかなプランはもって望んでいく必要があるのではということです。そうすることで、予算にしましても、選択と集中ができると思います。

服部町長

ある程度青写真みたいなものを示していただきたいということかと理解いたしました。先ほどお話のありました龍田幼稚園にしましても、例えば、近接する小学校に機能を置けるかなどの検討ですとか、具体論について、現段階では担当課と協議はいたしておりません。

また、町の公共施設について、優先順位や、どの施設とどの施設を一緒に考えていくか、延床面積を減らしていくかを検討している最中であり、当該検討組織の長である副町長を中心として議論を進めているところです。その中で、幼稚園についても検討され

る事柄であり、その他、保健福祉会館、あすかホール、図書館なども同様であります。

教育委員会という組織、各担当課の思いもありますので、教育委員の皆様におかれても、他の教育委員会施設についても具体的な案を検討いただきながら、また、担当課長などからも実態を教えていただき、様々な角度から協議を進めていきたいと考えております。

スクラップ&ビルドを進めていかなければ、例えば、人員の問題にしましても、私は可能な限り採用したいと考えておりますが、一方、本町の財政状況も考慮し、バランスをとっていく必要が私にはございますので、後の議題に教育委員会部局の人員についてございましたが、そのことも念頭にお話しております。

福本教育委員

何もかもできないことは承知していますので、選択と集中をお願いしたいと思えます。また、ある程度大まかなプランみたいなものがあれば、現場からの意見をとりまとめ報告する際も、今どれを言うべきかという選択ができると思えます。予算にしましても、つけるつけないを決定するにあたり、プランは必要であると思えますので、よろしくをお願いします。

事務局

(熊谷企画政策課長)

皆様、様々なご意見をありがとうございました。

それでは次に、議事(3)総合教育会議に対する姿勢、あすかホールの今後の展望、教育委員会事務局組織について、でございます。それぞれのご質問に対し、町長をはじめ回答をさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

服部町長

それでは、1点目の「総合教育会議に対する姿勢」について、回答させていただきます。まず、総合教育会議について、「大きなビジョン」を語る場ということについて、大きくは私もそのように考えております。

一方、法律上では、町長と教育委員会が各部局の構成員の事務の調整を行うためという目的も明文化されており、町長部局と教育委員会との連携により取り組みたい、取り組むべき事業などについて、私や教育委員の皆様だけでなく、会議の構成員として要綱に規定される副町長や部次長より、現場での課題や現状などについて説明させていただくことは、会議をより円滑に進捗させるために必要なものではないかと認識しております。

元にかえりまして、私も、大きな方向性、ビジョンについて、意見交換するという点については、そのとおりであると考えておりますので、今後、各所属で様々な施策を検討する中においては、本日皆様から頂戴した貴重な意見を参考にさせていただきたいと考えております。

次に、2点目の「あすかホールに関する今後の展望について」、回答させていただきます。こちらも資料に記載のありますとおり、私も、引き続き、文化芸術活動を支える拠点として、また、有事の際の避難所などとして、活用してまいりたいと考えております。

一方、現在、教育委員会とも協議の必要性があると感じていますが、図書館や歴史資料館を含めた「ふるさと文化村」の中長期的な方向性を検討する必要があるのではないかと考えています。

先日、町内部で、「公共施設等マネジメント検討委員会」を開催し、各公共施設の今後のあり方などについて、議論がなされたところでございます。

また、現在、兵庫県、たつの市及び本町を構成団体として、「市町連携ワーキング」を実施しており、例えば、公共施設の相互利用などについて、会議の場をもっているところでございます。

今後、これらの動向等も注視しながら、文化推進課、図書館、歴史資料館の3施設の教育委員会としてのご意向も踏まえつつ、ふるさと文化村の今後について検討する必要があると考えています。

ここで、現在議論が進められている先の会議の内容につきまして、副町長及び総務部長よりご説明させていただきます。

杉原副町長

副町長の杉原でございます。それでは、「公共施設等マネジメント検討委員会」について、私より簡単に説明させていただきます。

将来的な人口減少や少子高齢化に伴う人口構成の変化を踏まえ、税収の減少により町財政がひっ迫する中、本町が所有する学校、公民館などの公共施設や道路、橋りょう、上水道、下水道のインフラ資産が更新、改修時期を迎え、経費が増大していくことが見込まれています。こうした中、持続可能なまちづくり、公共施設とするためには、長期的な視点が必要となってまいります。

このような観点に立ち、太子町公共施設等総合管理計画を策定し、その進捗管理を行うのが、公共施設等マネジメント検討委員会ということでございます。委員会においては、各施設の個別施設計画や町総合計画の実施計画などとの整合を図りながら、議論を進めているところであります。以上でございます。

森田総務部長

それでは、「市町連携ワーキング」について、私より簡単に説明させていただきます。

兵庫県、たつの市及び太子町において、市町連携ワーキングがこれまでに2回開催されました。太子町からは、財政課、企画政策課が出席しており、先日の第2回の会議においては、文化推進課も出席させていただいております。

元々は、兵庫県より、県内の公共施設の状況等を踏まえ、各市町の意向も考慮した上で、これらの施設を共同運用、機能分化などについて検討することとなったものでございます。

本町においても、公共施設の老朽化、フルセットでの維持が大きな課題となっており、町全体として、公共施設の役割、管理運営方法、必要経費などについて、適宜検討していく必要があるものでございます。

服部町長

次に、3点目の「教育委員会事務局組織」について、回答させていただきます。組織や人員については、町全体として、次年度に向け、職員採用、組織の再構築、喫

緊の重点施策に注力する体制づくりの検討を進めているところでございます。

通常4月1日に新規採用職員を任用いたしますが、この度は、昨日12月1日にも2名の正規職員を採用したところでございます。

さて、昨年この場でご議論をいただき、令和3年4月より、さらなる子ども・子育て施策の充実のため、社会福祉課内に「子育て応援室」を設置させていただきましたが、例えば、令和4年4月に向けては、本日の定例教育委員会でもお示しがあったかと存じますが、業務の性質や効率化などの観点から、公民館業務を文化推進課から社会教育課へ、文化財業務を社会教育課から文化推進課へと移管する改正を行う予定でございます。

また、資料において、職員の働き方改革などのご指摘を頂戴しておりましたが、私もよく夜間などに各所属の様子を見回ったりもしておりますが、仰るとおりであると考えております。

いずれの部署においても、限られた職員で様々な業務をこなしていかなければならないのが現状ではございますが、日頃より、日常業務の再点検を行い、スクラップ&ビルド、集中と選択ということについても心掛けるよう、私や副町長などから話をしているところでございます。今ここで、特定の部署の人員を増加させるといったお話はできかねるところではありますが、状況としましては十分把握させていただきましたので、今後の組織のあり方や人事配置などの参考とさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

事務局  
(熊谷企画政策課長)

3点についてご説明させていただきました。これらの件について、ご意見やご提案等ございましたらお願いいたします。

【意見なし】

事務局  
(熊谷企画政策課長)

次に、議事(4)その他、であります。全般におきまして、どんな内容でも結構です。ご意見等ございましたら、よろしくをお願いいたします。

【意見なし】

本日、会議全体で頂戴した意見につきましては、しっかりと把握させていただきましたので、今後、関係部署において協議させていただきながら検討を進めてまいりたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

## 5 閉会

事務局  
(熊谷企画政策課長)

それでは、閉会にあたりまして、楢野教育長よりご挨拶をいただきます。

楢野教育長

皆様、長時間お疲れ様でございました。様々な方向からご意見をお伺いしました。しかしながら、まだまだ議論が深まっておりませんし、教育委員会としましても、ま

だまだ提案や希望したいという部分もございますので、今後も、意見をまとめて会議へ提案できたらと思っております。目指すところは、「魅力ある太子町の教育」であり、子どもたちを第一に考えていきたいと思っております。

先日、中学校3年生の痛ましい事件が報道されました。何故あのようなことになったのかはテレビでは伺い知れません。最終的に事件を起こすという選択肢しかなかったのかと考えますと、残念でなりません。そして、太子町の子どもたちにそのような思いはさせたくありません。そのためには、町長も先日仰いましたが、困難に立ち向かう力や自分で考える力、これは町の教育方針にも入っていますが、たくましく生きる力をつけてあげなければなりません。解決する力、その場から逃げ出す力、助けを求めることができる力も、たくましく生きる力であります。そのような中で、自立する子どもたちを育てるということが、教育の究極の目標ではないかと思っております。その上で、魅力ある太子町の教育を進めていけたらと考えております。

今日は本当にありがとうございました。